

人と環境にやさしい「ソーラーローズシステム」

キーワード（バラ、低コスト、省力、点滴灌水、ソーラーローズシステム）

要点

1. 定植本数が慣行の60%となるため、改植時の種苗費が60万円/10a低減します。
2. 通路が80cmと広いため、収穫、病害虫防除等の作業性が向上します。また、茎葉を畦の中央側に曲げるため、株元まで光線が入り、ペーサルシュートの発生が促されます。
3. 有機物マルチの下から灌水するため、除草作業がほとんど不要となります。
4. うね立てをせず平床鎮圧ベッドとし、点滴灌水と有機マルチを行うため、根群が通路を含めてハウス全体に広がり生育が旺盛になります。
5. 施肥は元肥にN20kg/10a、追肥N27kg/10a程度（通常の1/2程度）で旺盛な生育が見られます。

内容

1. 定植準備として、畦は立てずに平床として、ていねいに整地し、定植床・通路もすべて足で踏んで鎮圧します。灌水パイプは逆向き（散水する方を地面に向けて）にして、株の両側と通路に設置します。有機物（ケイントップ、稲わら等）を厚さ2～3cmに敷き詰めて全面マルチを行います。朝、昼、夕に灌水して、水平方向にもしみわたるようにします。平畦にして通路にも灌水することによって根群はハウス全体にひろがっていきます（写真1）。
2. 定植後蓄は出来るだけ早い内につみ取り、葉面積を確保します。定植後2～3ヶ月で株元から出てきた強いペーサルシュートはソフトピンチを行い、ペーサルシュートの最終ピンチが終わる頃に最初に摘蓄して葉面積拡大のために仕立てていたホウキ状の枝を株元から間引きます。約80cmの高さで最終ピンチをかけて光合成専用枝を発生させ、蓄の大きさが1cmをこえるころになったらこれをつみ取り、畦の内側に倒し、そこから採花する枝を伸ばします（写真2）。収穫は5枚葉1枚を残して切ります。
3. 現地実証試験において、ソーラーローズシステムの導入により、10a当たりの切り花収量が慣行区より約7%増加しました。また、上位等級のL以上（60cm以上）は、43%増加しました（76, 263本/53, 236本）（表1）。

その他

萌芽力の弱い品種や光合成専用枝を折り倒すときに皮がはじけやすい品種は、ソーラーローズシステムに適さない傾向があります。

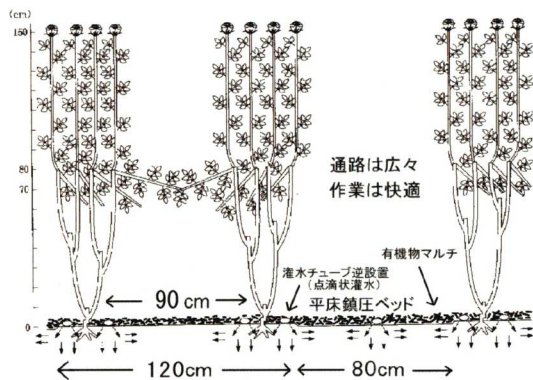


図1 ソーラーローズシステム植栽方法

栽植密度等

- 畦幅 120 cm、通路 80 cm、株間 30cm、1 畦 2 条植え（条間 100 cm）
- 約 10 株 / 3.3 m²（慣行の 60% 程度の疎植）。



写真1 定植10カ月目の根群の状況



写真2 光合成専用枝の折り曲げ状況

表1 ソーラーローズシステムにおける階級別切り花本数（県北普及センター調査）

	3L	2L	L	L以上小計	M	S	SS	合計
	本	本	本	本	本	本	本	本
試験区	51,789	14,211	10,263	(76,263)	15,789	1,105	0	93,158
慣行区	23,127	12,873	17,236	(53,236)	25,964	8,073	0	82,273

注1) 試験区の構成

試験区：ソーラーローズシステム区

条間 90 cm、株間 30 cm、畦巾 120 cm、通路 80 cm、植付け本数 3,000 本 / 10a

慣行区：条間 35 cm、株間 25 cm、畦巾 80 cm、通路 60 cm、植付け本数 4,800 本 / 10a

注2) 調査期間 平成 14 年 4 月～平成 15 年 1 月（定植平成 13 年 4 月）

注3) 階級区分 3L：70 cm以上、2L：65～70 cm、L：60～65 cm、M：50～60 cm、S：40～50 cm、SS：40 cm未満

問い合わせ先：総合農林試験場花き科（☎0957-26-3330）